

施策：	21	歴史・文化の継承と振興	財務コード	01090608-03-00
基本事業：	03	歴史学習の機会提供	担当部	教育部
基本事業の成果指標	歴史・文化に関する学習会等に参加した市民の数 歴史・文化に関する体験学習等に参加した児童・生徒の数		担当課	文化財課
			担当係	博物館担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	～		新規・継続	継続	会計区分			実施計画	
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
市民、在勤・通学者、福岡都市圏住民 教育・研究機関 歴史、文化・芸術関係団体			常設展は、通年展示しており、交通の要衝として古くから栄え、さまざまな人や物の交流があった本市の特徴を生かして、「交易と旅」をテーマとし、原始から近代に至る「通史」展示をしています。 企画展示（令和2年度）は、古文書整理速報展1「古文書からの伝言」展（会期10/10～12/13）及び関連講座（11/29）、「おいしい！」展（会期2/14～3/31）を実施しました。また、ロビー展示は「五郎山古墳のあゆみ」6～8月、「筑紫野市の日本遺産」9～12月、「学校のあゆみ」1～3月を実施しました。 ○学習支援は、小学校や地域への学芸員の派遣、博物館ボランティア活動の支援（定例会6回）に加え、新型コロナウイルスの影響で博物館での体験学習を中止せざるを得なかったため、SNS（ツイッター）による学習情報の発信（44回）、小学校への昔の道具の貸出（7校）、貸出資料のパッケージ化（2パック）を新規事業として実施しました。						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）									
地域への理解を深め、市民の自治能力の向上を図ります。 市民に対し、学習意欲の喚起を促し、地域学習の推進を図ります。 市の施策・事業や市民活動に対し、資料提供、助言を行なうとともにこれを支援します。 学校教育に対し資料提供、並びに教育支援を行います。									
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	01年度 実績	02年度 実績	03年度 当初	04年度 要求	05年度 計画	06年度 計画	目標
問い合わせへの学習支援数		回	95	247	300	300			
来館者数		人	14,551	4,671	16,000	16,000			
5. コスト									
事業費		計	千円	1,398	1,620	2,050	2,046		
		国	千円	0	0	0	0		
		県	千円	0	0	0	0		
		地方債	千円	0	0	0	0		
		その他	千円	0	0	0	0		
一般	千円	1,398	1,620	2,050	2,046				
正職員人工数		人工	0.75	1.5	1.5				
正職員人件費		千円	6,049	12,044	11,882				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	7,447	13,664	13,932	2,046			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）	令和元年度は企画展1回の実施でしたが、令和2年度は臨時休館後（～5/25）、古文書整理速報展1「古文書からの伝言」展、コロナ禍の時世を反映しての「おいしい！」展の2本の企画展を、「五郎山古墳のあゆみ」「筑紫野市の日本遺産」「学校のあゆみ」の3本のロビー展示を実施しました。また新型コロナウイルスの影響で館内での体験学習を中止せざるを得ませんでしたが、新たにSNS（ツイッター）による学習情報の発信（44回）、小学校3年生社会科の授業支援を目的に民俗資料の貸出（7校）、また貸出資料のパッケージ化などの事業を立ち上げました。臨時休館や体験学習の中止により入館者数は激減しましたが、来館できなくても歴史学習ができる環境作りに着手し、試験的ではあるが、一定提供することができたと考えます。								
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし	令和2年度から1名の正規職員及び2名の会計年度職員が学芸員として配置されたが、博物館学芸員としての経験がなく、学芸員のみで企画展示や学習支援が実施できず、学芸員の育成が、現在最も大きな課題です。令和2年度は企画展示の経験を積みながら、無料の専門研修に全員参加をし、また九博の学芸員から資料の取扱い等の指導を受けるなど、学芸員の育成を図っています。					
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	あり						
成果向上余地	大きい								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）									
改善方向性			維持	見直し	廃止	事業終了			
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
常設展については、開館から23年を経過し、映像機器、照明機器及び展示設備に老朽化による不具合が生じ、見学に支障が出ています。常設展のリニューアルに向け課内で検討が必要です。			博物館を含む文化財課のホームページをリニューアルし、来館しなくても様々な情報や学習情報を提供できる環境を整えることで、市民の歴史学習の機会を得るための選択肢が増え、また利便性が高まると考えます。リニューアルに向け検討が必要です。当面は、SMSを利用した学習情報の発信や貸出資料のパッケージ公開などを中心に進めていきたい。						
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）			備考・特記事項 or 進行管理欄						
平成30年度に正規職員の学芸員が退職し、令和2年度に文化財技師が博物館学芸員として配置されたが、収集資料に精通し、多分野の資料を適正に取扱い、企画展や学習支援を行うには数年の育成期間が必要である。博物館学芸員としての知識と技術の継承をいかに行うかが今後の課題である。									